

第1学年 音楽科学習指導案

日 時 平成27年10月23日(金) 5校時
児 童 1年1組男子19名女子15名計34名
授業者 瀬川 智佐

1 個人課題

音楽のよさを感じ取り、生き生きと表現する児童の育成 ～身体表現・言語活動・共通事項を関連させた指導を通して～

2 題材名 いろいろな音をくふうして、きらきらぼしをあらわそう

教材名 「シンコペーテッド クロック」(アンダソン 作曲)
「きらきらぼし」(武鹿 悦子 日本語詞 フランス民謡)

3 題材について

本題材は、次の指導事項から設定されている。

・A表現

- (1) 歌唱ア「範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること」
イ「歌詞の表す情景や気持を想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと」
- (2) 器楽ア「範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること」
イ「楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること」
ウ「身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること」
- (3) 音楽づくり
イ「音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること」

・B鑑賞

(1) 鑑賞の活動

- ア「楽曲の気分を感じ取って聴くこと」
- イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと」
- ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと」

・共通事項 ア(ア)音色、リズム、強弱

(イ)反復、問いと答え ※特に「音色」に焦点化を図って設定する。

本題材では、いろいろな音に対する興味・関心を育てながら、音色の違いや音の様々な特徴をとらえて表現の仕方を工夫することに重点を置く。そこで、まず鑑賞で音色が生み出す面白さを楽しみながら聴く学習を十分に深め、そこで得た楽器の音色への興味・関心をベースにして学習を展開する。実際に楽器の音を出して試しながら打楽器の様々な演奏の仕方を体験し、音色の違いを感じ取らせ、表現をする力をつけていきたい。

4 児童について

児童は、これまでの音楽の学習において、リズムや音の高さ、楽曲の気分に合わせて身体表現したり音楽表現したりする経験を重ねてきた。しかし、音色そのものに意識を向けたり、音色を聴き分けたりする経験は、音楽の学習において初めてである。また、音楽を聴いて自分の感じたことを言葉にすることが苦手な児童や、友達の表現から学ぼうとする意識の低い児童もいる。そこで本題材では、音色に意識を向けさせるための導入の工夫、目的意欲をもたせるための課題設定、個が試行錯誤したり互いによさを見つけ合ったりする場の設定、感じたことを言葉にする助けとなるような活動の流れなどに配慮して授業を構築していきたい。

5 題材の目標

- (1) 身近な楽器の音色の特徴を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら演奏の仕方や楽器の音色に興味・関心をもって演奏したり音楽をつくったりする。
- (2) 楽器の特徴的な音色を聴き取り、楽曲のよさや面白さを感じ取って聴く。

6 題材の評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能	観点4 鑑賞の能力
題材の評価規準	①打楽器の音色や楽曲の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ②打楽器の音色に興味・関心をもち、音の鳴らし方を工夫しながら表現する学習に進んで取り組もうとしている。 ③楽器の音色に興味・関心をもち、自分の思いに合った音を探しながら、音色を生かして音楽をつくる学習に楽しんで取り組もうとしている。	①歌詞の表す様子や気持ちを想像して、それに合った歌い方を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。 ②楽器の音色の特徴に気付き、いろいろな音の鳴らし方を工夫している。 ③音色や強弱の変化を聴き取り、それらが生み出す面白さを感じ取りながら、場面に合う音や、反復、問いと答えを生かした音楽の表現を工夫し、どのような音楽をつくるかについて思いをもっている。	①星空の様子を思い浮かべながら、自分の歌声や発音に気を付けて歌っている。 ②身近な楽器に親しみ、自分の音に気を付けて旋律を演奏している。	①楽曲全体にわたる気分を感じ取り、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲のよさに気付いて聴いている。

7 指導と評価の計画（9時間扱い）

時	学 習 活 動	題材の評価規準との関連 (評価方法)	主な教材曲
第1次	ねらい 楽曲の楽しさや演奏のよさに気付く。(楽器の音色や強弱, 反復)		
1	・楽器の音色やリズムを感じ、体を動かしながら鑑賞する。	観点1①・4① (発言内容・行動観察)	「シンコペーテッドクロック」
第2次	ねらい 歌詞の表す様子を思い浮かべ、楽曲の気分にあふさわしい歌い方や音の出し方を工夫する。		
2	・楽曲全体の気分を感じ取り、発音や音程に気を付けて歌う。	観点3① (演奏聴取)	「きらきらぼし」
3	・歌詞から星空の様子を思い浮かべ、歌い方を工夫する。	観点2① (発言内容・演奏聴取)	
4	・息の使い方に気を付けて鍵盤ハーモニカで演奏する。	観点3② (演奏聴取)	
5	・歌と鍵盤ハーモニカを合わせて演奏し、楽曲の気分に応じた表現をする。	観点2①・3② (演奏聴取)	
第3次	ねらい 演奏の仕方によって音色が変わることを感じ取る。		
6 (本時)	・音色に気を付けながら、様々な鳴らし方を試し、一つの楽器からいろいろな音を見つける。	観点1②・2② (行動観察・演奏聴取)	「きらきらぼし」
第4次	ねらい 打楽器を使って、星空の様子に合った音の出し方を工夫し、音楽をつくる。		
7	・三つの場面の星空の様子に合った音を選び、選んだ音の鳴らし方を絵や線、言葉などで表す。	観点1③ (行動観察・発言内容)	「きらきらぼし」
8	・選んだ音の鳴らし方に、既習をいかした工夫(強弱, 反復, 問いと答え)を加える。	観点2③ (演奏聴取・発言内容)	
9	・三つの場面をつなげて自分たちでつくった星空の音楽を演奏し、互いに聴き合う。	観点3② (演奏聴取)	

8 本時の指導（6／9）

(1) 目標

トライアングルとすずのいろいろな鳴らし方を進んで試し、奏法を工夫することができる。

(2) 個人課題や共通課題との関わり

①生き生きと表現するための手立て（視点①<意欲の喚起と関わる>）

本教材では「音色」の特徴を感じ取ることが、題材を通して捉えさせたい共通事項となっている。導入において、教師の鳴らす楽器の音色に合わせて身体全体を使った表現をさせることで、音色そのものに注意を向け、本時の中心となる活動の基盤作りをしておく。また、楽器の鳴らし方を試す前に教師が奏法は見せずに、トライアングルの数種類の音色を聴かせ、自分もいろいろな音を出してみたいという意欲に繋げる。

②音楽のよさを感じ取るための手立て（視点②<学び合いと関わる>）

互いの音色を聴き、図や言葉と照合し言語活動を充実させることにより、見えない音を視覚化し、児童が音色の特徴を共有できるようにしたい。また、友だちの工夫した音色の発表によって、新たな気づきが生まれたことを実感させ、学び合いの有効性を感じ取らせたい。

(3) 展開

	学習活動	指導の手立て
導入 15分	1 ウオーミングアップ ・教師が鳴らした打楽器（シンバル、ウッドブロック、トライアングル、すず）に合わせて身体表現をする。 ・「きらきらぼし」を歌う。 2 課題をつかむ	○楽器の音色に意識を向けさせ、音色に気を付けて聴こうとする意欲付けを図る。（☆①意欲の換気）
	いろいろなならしかたで、ほしにあうおとをたくさんみつけよう。	○教師が鳴らした楽器の中から、星を表すのに合う音色の楽器を選び、それを使って学習することを確かめる。
展開 25分	3 打ち方（奏法）のためし方を知る。	☆視点1（生き生きと表現するための手立て） 教師が、児童から見えないように一つの打楽器で数種類の音を聴かせ、奏法を考えさせる。すずやトライアングルでも奏法によって何種類も音が出せそうだという期待感をもたせるような、意欲付けを図る。 ・自分でも試してみたいという思いをもち、音の出し方に興味を示している。
	4 打ち方（奏法）を試して、いろいろな音を出す。 5 互いに打ち方（奏法）を工夫した音を聴き合う。 6 演奏の仕方をまとめる。	○トライアングルやすずで打ち方を試すようにさせる。 ■トライアングルやすずのいろいろな鳴らし方を試している。（行動観察） ☆視点2（音楽のよさを感じ取るための手立て） それぞれが見つけた音色を比較したり、工夫した音色を言葉で表現したりする活動を通して、自分では気付かなかった他の音の出し方に気付かせるとともに、奏法による互いの工夫のよさを認め合うようにする。 ・奏法と音色に注意を向けて見たり聴いたりしている。 ■奏法の仕方を変えて、一つの楽器から違う音色を出している。（演奏聴取） トライアングル すず ・打つ場所 ・手首を打つ ・打ち方（細かく・響かせて） ・こまかく振る ・にぎって
終末 5分	7 学習のまとめをする。	○学習課題をもとに本時で学んだことなどを振り返らせる。 ○次の時間の学習を予告し、見つけた奏法による音を使って「きらきらぼし」の歌に音をつけたいという意欲付けとする。

★個人課題 ☆共通課題 ■評価（評価方法）○指導の手立て（留意点）・予想される児童の反応